

稲作だより

第4号 本田初期偏
令和7年5月9日

最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1333

向こう1ヵ月の気温は高い（気象庁5/8発表）
降水量がやや多く、日照時間はやや少ない予報
活着を促進させ、初期生育を確保しましょう！

◎苗への移植前追肥 ～積極的な弁当肥で活着促進～

移植3～5日前に箱当たり窒素成分1gの追肥

育苗期間の日照時間が少なく経過しているため、苗の根張りが悪く、葉色が淡い傾向です。
活着促進のため、液肥等で移植3～5日前に窒素成分で1g/箱の追肥を行いましょう。
※注意事項 ①肥料焼け防止のため、追肥後に灌水する。②軟弱・徒長苗には施用しない。
③特別栽培の場合は施用しない。

◎移植時期 ～適期内に「田植え日和」を選んで～

移植適期は5月10日～5月25日

移植の遅れは穂数の減少や出穂・登熟の遅れなどにより収量減に繋がります(表1)。
適期内に移植を終えられるよう、計画的に作業を進めましょう。

特に「つや姫」は5月20日まで、「雪若丸」は5月25日までに移植を終了し、初期生育の確保に努めましょう。

表1 移植日と収量の関係

移植日	収量(kg/10a)	
	H29（登熟不良年）	R04
～5/20	495	530
5/21～25	468	524
5/26～	433	504

（「つや姫チェックリスト」より）

移植は好天が見込まれる日に

低温・強風日の移植は植え傷みの原因となり、活着や初期生育の遅れにつながります。

◎植付深・栽植密度 ～移植初日にしっかり確認～

植付深は3cm程度

これより深植えになると、初期の分げつ発生が抑制されます(図1)。
移植始めは、感覚を過信せず深植えになっていないか確認しましょう。

栽植密度 70株/坪を目安に

植込本数 4～5本/株、100本/㎡を確保

㎡当たりの植込本数が少ないと、穂数不足、一穂粒数過多による品質・食味・収量低下の要因になります。

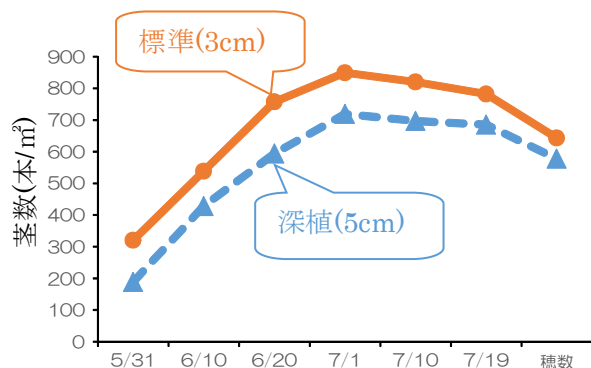


図1 異なる植付深による茎数の増え方
(R1 庄内農業技術普及課「つや姫」実証圃)

◎水管理 ～活着後浅水管理で分けつ促進～

移植～活着までは水深 4～5cm

風や外気による乾燥・低温から稲を保護し、発根を促すため深水管理を行います。

活着後は日中水深 2～3cm の浅水管理

地水温を高め分けつの発生を促すため、浅水管理を行います。

また、昼夜の温度較差を維持するため、昼間止水・夜間かんがいを行います。

ただし、低温や強風時は水深 4～5cm 程度（深水管理）とし、稲体の保護に努めましょう。

◎いもち病防除 ～葉いもちの発生を抑えるために～

箱施用剤の入れ忘れに注意！

地域全体の発生源とならないよう、計画した薬剤は忘れずに施用しましょう。

取置き苗は移植後 1 週間程度を目安に処分

取置き苗はいもち病の発生源となります。

忘れずに処分しましょう。



図2 取り置き苗で発生した葉いもちの病斑

◎雑草防除 ～効果的な雑草防除を行うために～

除草剤散布時期に注意

定められた使用時期から外れると、薬害の発生、除草効果が劣る等の恐れがあります。

雑草の葉齢展開は水稻よりも早いため、防除適期を逃さないよう圃場をよく観察しましょう。

薬剤に応じた水深と 7 日間の止水で除草剤の効果を最大限発揮

施用時は剤型に応じて下記の水深を保ちます。

粒剤・フロアブル剤・顆粒水和剤：3～5cm

ジャンボ剤・豆つぶ剤・250 グラム粒剤：5cm 以上

散布後はしっかり水尻を止め、漏水を防ぎましょう

散布後 7 日間は止水管理とし、田面が露出した場合はゆるやかに水を入れましょう。

*薬害とドリフト防止のため、強風時の除草剤散布は控えましょう。

「山形県農作業事故防止啓発運動～春季運動強化期間
(4月1日～6月10日)」

- ① 耕起作業が遅れていますが、移植作業は焦らずに気を引き締めて！
- ② 苗の受け渡し時は足元の安定を確認！
- ③ 整備は必ずエンジンを止めてから！動く爪は触らない！

土壌還元（ワキ）対策には、積極的な水交換・夜間落水・田干しを!!

5 月 20 日頃発行の第 5 号「本田初期水管理編」にて、詳しく解説します。